

ここから広げよう!! 各学部の先生からのオススメ本 READING LIST

人文学部 野上 志学 先生



ドストエフスキー 著; 望月哲男 訳

『白痴』1、2、3

(河出文庫; [ト8-1] [ト8-2] [ト8-3])

河出書房新社, 2010年

【所在】 図・開架・図書

【請求記号】 983/D88/1, 983/D88/2, 983/D 88/3

本作は、四人の主人公たちが「痴情のもつれ」から悲劇的な結末を迎えるという「メロドラマ」風の筋書きにもかかわらず、作者自身が語っているように、荒廃した世のうちに「完全に美しい人」を描こうという試みです。ドストエフスキーにしては珍しく映像的な美が際立つ作品であるとともに、ある主人公が「完全に美しい人」だったのか、そのような人は存在しうるのかという問いに我々をとらえる魅惑的な作品です。

教育学部 松本 昭彦 先生



平野啓一郎 著

『死刑について』

岩波書店, 2022年6月

【所在】 図・開架・図書 【請求記号】 326.41/H66

現代の著名な小説家でもある著者は、社会的発言も積極的に行っており、この書も弁護士会での講演やシンポジウムをもとに書籍化された。もとは死刑存置派だった著者がどのような考察を経て廃止派になったかが中心に語られているが、あわせて、「自己責任」論や学校での人権教育の在り方等も視野に入れ、「消極的存置派」を念頭に人間存在に関わる死刑の問題性を投げかけている。「週刊金曜日」23年1月20日号に掲載されたインタビューもあわせて読むとよい。

医学部 福録 恵子 先生



長谷川和夫, 猪熊律子 著

『ボクはやっと認知症のことがわかった:
自らも認知症になった専門医が、
日本人に伝えたい遺言』

KADOKAWA, 2019年12月

【所在】 医・医学科図書室(看護) 【請求記号】 493.78/H36

今や世界が注目する課題である認知症、その約7割を占めるアルツハイマー病は、日々、新薬開発が進んでいる。本書は、認知症医療の第一人者である著者が、認知症当事者となってわかったことを、認知症を取り巻く諸問題とともに記している。本書を読むことで、認知症によって生じる暮らしの障害を取り除く重要性が学べるだけでなく、年齢を問わず、生き方について考える機会になるだろう。

工学部 元垣内 敦司 先生



山田克哉 著

『光と電気のからくり:
物を熱するとなぜ光るのか?』

(ブルーバックス; B-1259)

講談社, 1999年7月

【所在】 図・開架・図書 【請求記号】 427/Y19

光とはどのようにして発生するのか、そもそも光とは何かを考えるには、物質の構造や電子の役割を理解することが必要で、更に電気と光の関係を知ることも必要になります。この本は静電気の発生に始まり、電気と磁気の関係、光の正体、原子の構造と光の発生メカニズムについて説明しています。光と電気のからくりを知ることで日常生活に不可欠な光に対して深く興味を持つことができます。

生物資源学部 木佐貫 博光 先生



三島由紀夫 著

『潮騒』改版

(新潮文庫; 920, み-3-7)

新潮社, 2005年10月

【所在】 図・開架・PB 【請求記号】 913.6/Mi53

君は神島を訪れたことがあるか?この三重県東端に位置する島を舞台に、著者がこの傑作を発表したのは20代後半。人の心理や行動についての的確な描写のみならず、植物や動物が生いきと描かれているのが良い。例えば、島から出たことのない女性を強風に抗う蝶に重ねるくだりは秀逸。島内を歩くと、著者が魅力的に描写した情景をあちこちで確認できる。さあ、本を片手に潮騒の島へ!

共通教育センター 大野 研 先生



ユヴァル・ノア・ハラリ原案・脚本;
ダヴィッド・ヴァンデルムーレン脚本;
ダニエル・カザナヴ漫画; 安原和見 訳
『漫画サピエンス全史』人類の誕生編

河出書房新社, 2020年11月

【所在】 図・開架・図書 【請求記号】 209/H32

2017年にベストセラーになった、同一著者の『サピエンス全史』河出書房新社(2016)のバンド・デシネ(グラフィック・ノベル)版である。本書は第1巻で、本家『サピエンス全史』の前半4分の1程度の内容が漫画になっている。かつて地球上には何種ものヒトがいたのに、「なぜホモ・サピエンスだけが繁栄したのか?」が中心の話題となっている。現在第2巻まで刊行済みである。

*** 編集後記 ***

今回の特集にある資料取り寄せ大学負担化ですが、昨年10月に始まり多くの学生の皆さんに利用いただきました。これまで研究に必要でも費用の問題で見合わせていた資料があれば、図書館に是非ご相談ください。

新入生の皆さんを迎えることもあり今号では施設紹介を特集させていただきました。図書館の施設利用制限も日を重ねるごとに解除されてきています。新入生だけでなく皆さん全員に図書館施設やより良いサービスを提供してまいりますので、来館いただき、図書館を活用してもらい、皆さん居場所の一つになることができればと思います。

